

小林市における幼稚園・保育所・認定こども園と 小学校の連携

—就学前教育の重要性—

Partnership and Cooperation between Kindergartens, Day-care Centers,
Certified Centers for Early Childhood Education and Care and
Elementary Schools in Kobayashi City : Importance of Preschool Education

佐 藤 実 芳

SATO Miyoshi

キーワード：小林市、幼保小の連携、就学前教育の重要性

はじめに

宮崎県小林市は、市民一人一人の自己実現をめざした「0歳から100歳までの小林教育プラン」のもと、「学びたい」「学ばせたい」気持ちを高める教育の取り組みを行っている。そして就学前の子どもから高齢者までの生涯学習により、「自立」「感謝」「貢献」という循環・発展型社会作りに取り組んでいる。

同市は、平成21年度⁽¹⁾から、全小・中学校で小中一貫教育を導入し、小林市独自の「こすもす科」⁽²⁾を創設した。同市は、「これからの小林市民に必要とされる資質や能力を身に付け、自分自身や郷土に対して自信と誇りをもって生きていく人間を育成することを目指し」⁽³⁾、「知」「徳」「体」「食」のバランスのとれた子どもを育成するために、同科の学習を市内全小・中学校において9年間実施して、学校間の格差なく平等で質の高い教育を保障している。

学校教育法第22条で定められているように、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」であり、保育園（所）⁽⁴⁾と認定こども園もそれに準ずる役割を担っている。とはいえ、各々の違いは大きい。幼稚園は文部科学省管轄の学校教育法に基づく学校で、満3歳から小学校就学の始期に達するまでの幼児を対象とする。幼稚園では、幼稚園教諭により、幼稚園教育要領に基づいた教育が行われる。保育園（所）は厚生労働省管轄の児童福祉法に基づく児童福祉施設で、保育に欠ける乳幼児を対象とし、保育時間が長い。保育園（所）では、保育士により保育所保育指針に基づいた保育が行われる。認定こども園は、文部科学省・厚生労働省管轄で、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に基づき、保育に欠ける子どもも欠けない子どもも受け入れて、教育と保育を一体的に行っている。0歳児から2歳児までは保育士、3歳児から5歳児までは幼稚園教諭と保育士の両資格のある者が教育・保育にあたるのが望ましいとされている。

一般的に幼稚園、保育園（所）、認定こども園は私立が多く、園児を集めるために特色のある教育や保育を実施している園が多い。また、各園の卒園児は複数の小学校に入学していく。

校区が決まっている市立小・中学校に比べ、小学校と幼稚園、保育園（所）、認定こども園との関係は複雑であり、連携するのは容易なことではない。しかし、小林市は学校教育の土台となるのが就学前教育であるという認識に立ち、その重要性から幼稚園・保育園（所）・認定こども園（同市幼・保・小連絡協議会は、幼稚園、保育園（所）、認定こども園を、幼保園と呼んでいる。本稿ではこれに倣い、以下「幼保園」という用語を用いることがある。）と小学校との連携を強力に推進している。本稿では、小林市の幼保園と小学校との連携の実態を吟味することにより、幼保園と小学校との連携の理想の姿を検討する。

1. 小林市の幼稚園・保育所・認定こども園と小学校

小林市内には、小学校が12校あり、すべて市立である。幼稚園は、8園（1園が認定こども園）あり、うち私立が7園、市立が1園である。保育園（所）は、22園（2園が認定こども園）あり、うち私立が16園、市立が5園である。認可外保育施設は、企業職員用の2園を含む3園がある。

市内唯一の市立幼稚園である野尻幼稚園では、園長を野尻小学校長が兼任している。幼稚園は、小学校と公道を挟んで隣接した場所にある。小学校と幼稚園とは独立しているが、園児たちは校長先生を園長先生として慕っており、そのことだけでも園児の小学校へのスムーズな移行に繋がると考えられる。筆者は、平成29年2月13日に同園を訪問し、園児の散歩に付き添った。小学校側に歩道があり、丁度園児が小学校の横を通る時間帯が休み時間であったため、校庭で遊んでいた児童が園児に声をかけている様子を見ることができた。幼稚園と小学校との意図的な交流ではないが、園が小学校の近隣にあるだけでも、園児は小学校を身近に感じることができると感じた。この点は、他の幼保園でも同じことが言えるであろう。

小学校の校区にある幼保園の数は、小学校により大きな違いがある。例えば、小林小学校の校区には、3私立幼稚園（小林昭和幼稚園、小林カトリック幼稚園、育英幼稚園）と7保育園（所）（朝日保育園、こすもす保育園、こばと保育園、さくら保育園、中央保育所、朋こども園、まがた保育園）と1認可外保育施設（小林幼稚園）があり、市内では幼保園の数が極端に多い。一方、須木小学校区には、市立須木保育園しかない。一般に、子ども達は校区内又は近隣の幼稚園、保育園（所）、認定こども園に通園するので、小林小学校のように校区内に園が数多くある小学校と、須木小学校のように校区内に1園しかない小学校とでは連携の仕方は違ってくると思われる。

2. 小林市幼・保・小連絡協議会

小林市幼・保・小連絡協議会は、平成19年度に、市内すべての幼稚園、保育園、認定こども園と小学校の確実なつながりを目指して作られた。同協議会会則第1条には、同会の目的が以下のように定められている。

第1条 小林市の幼児期及び児童期（前期）における養護・教育のあり方について保育園（所）、幼稚園、認定こども園並びに小学校が相互に研修を行い、連携を密にして相互理解を深め、幼児・児童の健全な成長を期するため、小林市幼・保・小連絡協議会（以下「協議会」という）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めることを目的とする。

協議会の事業は、同会則第3条に以下の3項目が定められている。

- （1）幼・保・小各所属長の会の開催
- （2）各ブロックの代表校長と幼保育園（所）の代表所属長による理事会の開催（必要に応じ開催）
- （3）各小学校単位での幼・保・小の交流活動の促進

協議会の事務局は市教育委員会学校教育課に置かれ、市立小学校と市内にある幼稚園、保育園（所）、認定こども園によって組織されている。小学校区ごとの会も設けられている（表1参照）。

表1：小林市幼・保・小連絡協議会の組織

会 長	小学校校長会代表
理 事 会	8ブロックの代表校長と幼保育園（所）の代表所属長（必要に応じて開催）
所 属 会	小学校と幼保育園（所）の所属長
小学校区ごとの会	「所属長会」「主任と1学年担当者会」

平成28年度は、5月23日に第1回連絡協議会、11月18日に研修会、2月7日に第2回連絡協議会が開催された。10月にはアンケートが全幼稚園、保育園（所）、認定こども園の年長児クラスと保護者と担任保育士又は担任教諭及び全小学校の1年生の保護者と担任教諭に実施された。第2回協議会では、アンケートの結果報告と小学校区ごとに1年間の取組状況及び成果と課題の発表が行われた。

協議会は、「小林市の幼・保・小で共に育てよう」というスローガンの下、「基本的な生活習慣」、「基礎体力作り」、「学習のかまえづくり」を目指している。

【1】研修会

平成28年度小林市幼保小連絡協議会研修会実施要綱には、「小林市の幼児期及び児童（前期）における発達の段階に応じた学習習慣の適切な指導について、幼保育園と小学校、関係機関が相互に研修を行い、連携を密にして相互理解を深め、幼児・児童の健全な成長を期する」とその目的が記されている。同会は小林市教育委員会と小林市幼保小連絡協議会が主催し、幼稚園・

小林市の幼・保・小で共に育てよう

小林市幼保小連絡協議会

基本的な生活習慣

あいさつと「はい」の返事が進んで言える。

- 「はい」「いただきます」「ごちそうさまでした」が、しっかり言える。
- 「ごめんなさい」「ありがとう」言いました」が、素直に言える。
- 「おはようございます」「こんばんは」「せうなら」が、元気よく言える。

早寝早起き朝ごはんをまもる

- 午後八時～午後十時までは就寝する。
- 決まった時刻には起床する。
- 朝ごはんはバランスよく、毎日しっかり食べる。

自分でできることは自分でする

- 朝の身支度（起床・歯磨き・着替え等）は自分でする。
- 園や学校への準備物は、自分で用意する。
- 自分で使ったもの（くつや遊び道具等）は自分で片付ける。

小林市の幼・保・小で共に育てよう

小林市幼保小連絡協議会

学習のかまえづくり 基礎体力づくり

- 文字を親しむ。
- 文字を書いたり読んだりする。
- 本に親しむ。

- 文字を書くとき、読んだとき、
- 文字を親しむ。
- 文字を書いたり読んだりする。
- 本に親しむ。

- 相手の目を見てはきき話す。
- 相手に聞こえる声の大きさを話す。
- 聞かれたことにきちんとこたえる。

- 相手の目を見てはきき話す。
- 相手に聞こえる声の大きさを話す。
- 聞かれたことにきちんとこたえる。

- 人の話を最後まで聞く。
- 話す人の目を見て聞く。
- 姿勢を正しくして聞く。

- 何事も根気強く取り組む。
- 毎日続ける手紙やがんばり事（勉強も含む）に取り組む。
- 遊びや運動に親しみ、基礎体力づくりに取り組む。

- 何事も根気強く取り組む。
- 毎日続ける手紙やがんばり事（勉強も含む）に取り組む。
- 遊びや運動に親しみ、基礎体力づくりに取り組む。

- 朝・昼・夜の三食しっかり食べる。
- おやつは、決まった時刻に決まった量だけ食べる。
- 苦手なものも食べるようにする。

- 朝・昼・夜の三食しっかり食べる。
- おやつは、決まった時刻に決まった量だけ食べる。
- 苦手なものも食べるようにする。

- 朝・昼・夜の三食しっかり食べる。
- おやつは、決まった時刻に決まった量だけ食べる。
- 苦手なものも食べるようにする。

小林市教育委員会提供

保育園（所）・認定こども園関係者、小学校幼保小連携担当者、小学校1年生担任教員、その他希望する教職員等を対象とする。講演会（「幼保小連携の現状とこれから」立元真宮崎大学教授）と0歳からの教育教材検討委員会による平成28年度作成のテキストと紙芝居についての説明がなされた。

【2】小学校入学までの目標

小林市は、小学校生活の「学習のかまえづくり」として、小学校入学までに子ども達が達成すべき目標を以下のように定めている。

学習のかまえづくり		入学までの目標
人の話を注意して聞く	人の話を最後まで聞く	話が終わるまで、自分の席から離れないようにしましょう。
	話す人の目を見て聞く	おへそを話す人に向けて聞くようにしましょう。
	姿勢を正しくして聞く	両足を床につけて話を聞きましょう。
相手に分かるように話す	相手の目を見てはっきり話す	話が終わるまで相手の目を見て話しましょう。
	相手に聞こえる声の大きさを話す	時と場に応じた声の大きさを話しましょう。
	聞かれたことにきちんとこたえる	単語で答えるのではなく、自分の気持ちを伝えるように頑張ってみましょう。
文字などを書いたり読んだりする	文字に親しむ	ひらがなを読めるように頑張ってみましょう。
	文字を書いたり読んだりする	自分の名前を書いたり、読んだりできるように頑張ってみましょう。
	本に親しむ	自分のお気に入りの本を見つけ、親子で本を読みましょう。

小林市教育委員会提供

定められた目標は、小学校に入学するまでに子どもが体得しておかなければ、入学後の学習に支障をきたす最低限のことである。幼保園でも年長児になれば、この目標を念頭に保育が実践されている。

【3】アンケート

小林市幼保小連絡協議会は、幼保園と小学校で一貫した系統的な指導を実施していくために設定した「具体的指導事項」に関して、幼保園の年長児と小学校1年生の状況を把握するためのアンケートを実施している。

調査の対象は、市内幼保園の年長児の保護者及び担当職員、市内小学校1年生の保護者と担任教員で、アンケートは11月に実施される。アンケートは無記名であるが、年長児の場合は、在籍幼保園名と入学予定小学校名、1年生の場合は、在籍小学校名と卒園幼保園名を記入する。

アンケート用紙は、保護者用と学級担任用があるが、質問項目は次の27項目である。*のある質問項目は、保護者のみが答える。アンケート項目は、協議会が幼保園の年長児と小学校1年生に身に付けさせたいと考える生活習慣と学習に必要な基礎的な能力である。

1. 「はい。」「いただきます。」「ごちそうさまでした。」が、しっかり言える。
2. 「ごめんなさい。」「ありがとうございました。」が、素直に言える。
3. 「おはようございます。」「こんにちわ。」「さようなら。」が、元気よく言える。
* 4. 午後8時～午後10時までには就寝する。
* 5. 決まった時刻には起床する。
* 6. 朝ごはんは、毎日しっかり食べる。
* 7. 朝の身支度、(起床、歯磨き、着替え等)は自分でする。
* 8. 園や学校への準備物は、自分で用意する。
9. 自分で使った物(くつや遊びの道具等)は自分で片付ける。
10. 人の話を最後まで聞く。
11. 話す人の目を見て聞く。
12. 姿勢を正しくして聞く。
13. 相手の目を見てはっきり話す。
14. 相手に聞こえる声の大きさと話す。
15. 聞かれたことにきちんとこたえる。
16. 文字に親しむ。(関心を持つ)
17. 文字を書いたり読んだりする。
18. 本に親しむ。(絵本の読み聞かせをしていますか)
* 19. 朝・昼・夜の三食しっかり食べる。
* 20. おやつは、決まった時刻に決まった量だけ食べる。

21. 苦手なものも食べるようにする。（アレルギー食は除く）
* 22. TVやゲーム、ビデオは、家庭でルールをつくって見たり遊んだりする。
23. いろいろな遊びを通して、十分体を動かす。
* 24. 保護者と子どもと一緒に遊ぶ。
25. 何事も根気強く取り組む。
* 26. 毎日続ける手伝いやがんばり事（勉強も含む）に取り組む。
27. なわとびやジョギングなどで、基礎体力づくりに努める。

小林市幼保小連携協議会「幼保小連携に関わるアンケート」より作成

保護者用のアンケートは、「まだできないかな」「もう少しでできるかな」「まあまあできるかな」「とってもいいよ」の解答欄から、あてはまると思うところに○を記入する形式である。学級担任用は、卒園幼稚園、保育園（所）、認定こども園別に、学級集団の到達度として、「できていない」「もう少しでできる」「まあまあできる」「とってもよい」の解答欄からあてはまると思うところに○を記入する形式である。欄外に、保護者用アンケートには、「小学校に入学するまでに不安なことや、小学校に入学してから困ったことなど、何かありましたら、教えて下さい。」、学級担任用アンケートには、「幼稚園・保育園と小学校の連携で、何かご意見や要望がありましたら、教えて下さい。」という自由記述欄がある。

このアンケートは、幼稚園と小学校との認識の違いや保護者と学級担任との認識の違い、昨年度までとの比較等様々な視点から分析されて、自由記述も含めて「幼保小連携に関わるアンケートのまとめ」として公表される。そしてこのアンケートの結果は、翌年度の幼稚園での保育と、小学校1年生での教育に活用される。

3. 小林市立小林小学校区における幼保小連携の取組の実際

前述したように、同校の校区内には、3私立幼稚園、7保育園（所）と1認可外保育施設がある。同校の連携の取組みについて、市立中央保育所を例に紹介する。

（1）園児の小学校訪問

同校では、1年生クラスに校区内全幼稚園・保育園の年長児を招いて、給食体験を実施している。中央保育所の場合、平成28年度は、保育士が付き添い1年生の各クラスに7人程度の園児が入り、小学校給食を体験したという。この体験を通して、園児は保育所とは違った小学校での給食（食事内容や量、食事時間等）を小学校入学前に知ることができる。

また、保育士が園児と共に招待される授業参観もある。園児は遊び中心の保育所生活とは異なる学習中心の小学校生活を初体験する。保育士は、小学校入学後の卒園児の成長を確認することもできる。年長児が小学校を訪問し、給食体験や授業参観することで、園児には、園での生活と小学校での生活との違いがわかり、子どもなりに小学校に入学する心構えができていく

と考えられる。

（２）児童の幼保園訪問

小林市では、独自の「こすもす科」において、キャリア教育の第一歩として小学校５年生で保育体験を実施している。この単元は、「職業としての保育士を知り、保育士を体験することで自分のよさや課題をみつけ、子育てや将来の職業について考え、生き方を模索することができる」⁽⁵⁾ことを目標として指導される。小林小学校では中央保育所と小林昭和幼稚園で、園児の活動等の見学と保育士体験を行っている。中央保育所には、５年生児童がクラス別に訪問する。保育士の体験活動は、５年生に望ましい職業観や勤労観を育むことができる。

また同校の５年生は、総合的な学習の時間に米作りをしている。その田植えと稲刈りにも中央保育所の園児が招待される。年長児にとって、小学校に入学したら５年生が最高学年になる。来年入学してくる新入生が、どのような様子なのかを理解しておくことは、５年生にとっても大切なことである。また、年長児にとっても、小学校には、優しいお兄さん・お姉さんがいると安心することができる。

（３）小学校教諭による幼保園への訪問指導

小学校教諭が校区にある幼保園を訪問し、小学校入学前の準備として年長児の指導をしている。その際、年長児の情報を小学校と幼保園が共有することができる。各園でどのような指導がなされているかも小学校教諭が理解することができる。

小・中学校で指導されている立腰⁽⁶⁾は、幼保園でも指導している⁽⁷⁾。しかし、小学校教諭から小学校でも立腰をしているという話を聞くと、年長児の立腰への取組みも自然と変化してくるという。

同校は、複数の幼保園の卒園児が入学する小学校のため、小学校教諭が各園の保育状況を把握しておくことは、新入生を迎える準備としてはとても有効である。また、幼保園も、小学校入学後に問題なく学校生活に送るために、卒園時まで具体的に何を指導しておく必要があるのかがわかる。

（４）小学校の入学準備

小林保育所では、年長児に卒園前の３月から45分間椅子に座り机に向かって作業をする訓練をする。小学校の授業は45分である。卒園するまでに、45分間落ちついて座って作業する習慣を身につけさせておけば、小学校入学後、子どもは違和感なく45分間の授業を受けることができる。その他にも、給食を20分程度で食べる練習をしたり、通園バックを自分で持って通園する習慣を身につけさせるなど、生活習慣の自立を目指す指導をする。給食に関しては、保育所に比べて小学校では食事が多く食事時間も20分程度と短い。子ども達は小学校で授業参観や給食体験を経験しているので、そのイメージを描いて小学校入学の準備練習をすることができる。

4. その他の小学校での幼保小連携の取組の実践

小林小学校以外の小学校における平成28年度の幼保小連携の実践例を紹介する。

（1）生活科での交流

南小学校では、1年生が生活科の学習の一環として「昔の遊びフェスティバル」に年長児を招待して、伝統的な遊びを園児に教えて一緒に遊ぶという活動をした。東方小学校では、1・2年生が、楽しいお店を準備した「あきまつり」に東方保育園の園児などを招いて交流を楽しんだ。三松小学校と須木小学校でも、1・2年生がおもちゃを作り、園児を小学校に招待して一緒に遊ぶという交流活動を実施した。

永久津小学校では、1年生の生活科「もうすぐ2年生」で、永久津保育園の年長児を招いて、手作りおもちゃによる遊びや歌、合奏、学校の行事を紹介する交流を行った。野尻小学校では、1・2年生と野尻幼稚園・野尻保育園児が芋の苗植えを行い、11月に収穫した。

（2）小学校の行事への園児の参加

運動会に幼保園の園児を招待する小学校は多い。野尻小学校では、1・2年生と野尻幼稚園児、野尻保育園児、大塚原保育園児が、よさこいソーランと一緒に踊るというプログラムがあった。細野小学校では、来年度の入学児童が徒走競技に参加した。東方小学校でも、年長児が競技に参加した。

運動会以外にも、スポーツの行事に幼保園の園児を招待する小学校がある。須木小学校では、須木中央保育園の園児がなわとび大会を見学した後、児童と交流活動をした。東方小学校では、東方保育園の園児が持久走大会を見学して応援した。南小学校でも、持久走や水泳指導を、幼保園の園児が見学した。

（3）幼保園の行事への児童の参加

細野小学校では、細野保育園の運動会を見学に行ったり、3年生がもちつき大会に参加した。野尻小学校では、1年生が野尻幼稚園での人形劇の鑑賞教室に参加した。

（4）小学校教員による幼保園訪問

校区にある幼保園には、1年生の担任教員だけでなく全教職員が訪問している小学校や、複数回の訪問を実施している小学校がある。

西小学校・幸ヶ丘小学校では、校長がかおる保育園と西小林保育園の参観日に、保護者向けの講話を行った。また、南小学校では、小学校1年生の担任教員が保育園の参観日に、保護者に小学校生活の様子や入学までに身に付けて欲しいことなどについて説明した。

(5) その他

永久津小学校には、保育園の先生が毎週月曜日の朝の活動時に、6学級のうち輪番で1学級に読み聞かせを実施した。

まとめ

幼稚園・保育園(所)・認定こども園と小学校との連携の難しさは、幼稚園、保育園(所)そして認定こども園の多様さにある。文部科学省管轄の幼稚園と厚生労働省管轄の保育園(所)、両省管轄の認定こども園には、様々な違いがある。園の規模も異なる。また、公立と私立とでも違う。特に私立幼稚園の場合、特徴のある教育をしているケースが多い。そのため、小学校入学時の子ども達の状況に大きな差が見られる。

小林市の場合、その違いはあっても、教育委員会主導の幼稚園・保育園(所)・認定こども園と小学校の連携を実践している。その中心は、小林市教育委員会学校教育課に事務局を置く「小林市幼・保・小連絡協議会」である。年2回の連絡協議会、研修会とアンケート実施の他、各小学校校区ごとの連絡協議会も実施しており、幼稚園・保育園(所)・認定こども園と小学校との連携が着実に進められている。小学校に入学する迄に子どもが達成すべき目標が決められており、幼稚園・保育園(所)・認定こども園では、その達成を念頭においた保育が実施されている。

幼稚園、保育園(所)、認定こども園は、その園独自の保育を実施することも大切であるが、卒園すれば子ども達は小学校に入学していく。そのことを考えれば、いくら独自の保育が素晴らしいとしても、小学校と歩み寄る必要がある。小林市の場合、小学校5年生の「こすもす科」での保育体験をはじめ、園児が小学校を訪問して児童と交流活動をする機会が多く設けられている。給食体験や授業参観、生活科の授業や運動会を中心とした学校行事に参加することにより、小学校への入学が不安ではなく楽しみになると思われる。

また、小学校の先生方が幼稚園、保育園(所)、認定こども園を訪問して保育参観をしたり、幼稚園、保育園(所)、認定こども園の先生方が小学校を訪問して授業参観することで、幼稚園、保育園(所)、認定こども園と小学校が協力しなければ、小林市の目指す教育を実現していくことができないという意識が先生方に育まれていくと考えられる。

子どもの成長は連続的である。幼稚園・保育所(園)・認定こども園を卒園して、子ども達がスムーズに小学校生活に移行することができるためには、幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校との連携は不可欠である。「0歳から100歳まで小林教育プラン」のもと、小林市は、小中学校を通した一貫教育に加え、幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校との連携を積極的に推進し、その効果をあげている。就学前教育において、小学校からの学習の土台作りをしておくことが如何に大切であるかを、小林市教育委員会の取組が証明している。

【注】

- (1) 平成22年3月23日に小林市が野尻町と合併したため、野尻町区は小中一貫教育を平成23年度に導入した。
- (2) 小林市は、平成21年度から小林地区全小・中学校で一貫教育を導入（野尻町区では平成23年度から導入）し、独自の「こすもす科」を創設した。同科の内容は、小林市民に必要な資質や能力を身に付けさせ、自分自身や郷土に自信と誇りをもって生きていく人間の育成を目指している。平成23年度に、単元の整理統合と新単元を導入して、『児童生徒用テキスト』及び『指導者用手引き』の改訂作業が行われた。
- (3) 小林市教育委員会「はじめに」、『こすもす科指導者用手引きⅠ【改訂版】小学校第1・2学年用』、平成24年4月。
- (4) 小林市幼・保・小連絡協議会は、同会会則で、保育園（所）という表現を用いている。本稿では、固有名詞以外はこの会則に基づき保育園（所）で統一する。
- (5) 小林市教育委員会『こすもす科指導者用手引きⅢ【改訂版】小学校第5・6年 中学校第1学年用』、平成24年、41頁。
- (6) 「立腰」とは、「背骨を立てる」という意味で、森信三が「心身相即」の精神を提唱したものである。小林市では、「平成23年度小林市教育基本方針並びに教育施策」の中でも、基本的な学習習慣の育成と内面的な指導の充実のために立腰指導を推進している。筆者は、平成28年3月16日に小林小学校を訪問した際、授業が立腰と黙想で始まり、児童の姿勢の良さと授業に集中している様子を見学してきた。
- (7) 幼稚園、保育園（所）、認定こども園では「立腰」という言葉は使わず、「ペタ、ピン、トン」などで表現している。

【参考文献・資料】

1. 小林市教育委員会『コスモス科 【改訂版】小学校第1・2学年用』、平成24年。
2. 小林市教育委員会『コスモス科 【改訂版】小学校第3・4学年用』、平成24年。
3. 小林市教育委員会『こすもす科指導者用手引きⅠ【改訂版】小学校第1・2学年用』、平成24年。
4. 小林市教育委員会『こすもす科指導者用手引きⅢ【改訂版】小学校第5・6学年 中学校第1学年用』、平成24年。
5. 小林市教育委員会「平成28年度 第1回 小林市幼・保・小連絡協議会」、平成28年5月23日。
6. 小林市教育委員会「平成28年度 第2回 小林市幼・保・小連絡協議会」、平成29年2月7日。
7. 小林市教育委員会「平成28年度 小林市幼・保・小連絡協議会 研修会」、平成28年11月18日。

8. 小林市教育委員会「平成28年度 小林市幼・保・小連絡協議会 アンケートのまとめ」。
9. 小林市教育委員会「平成28年度 0歳から100歳までの小林教育プラン」。
10. 小林市教育研究センター、＜0歳児からの教育研究グループ テキスト班＞、0歳児からの教育教材検討委員会（保護者用テキスト部会）『小林市ハートほんわか子育てBOOK 2 いつもそばいてくれてありがとう ～あなたは 私の宝物 小林の宝物～』、小林市教育委員会、平成29年。
11. 小林市幼・保・小連絡協議会「小林市幼・保・小連絡協議会だより」平成28年3月。
12. 渡邊康隆（小林小学校校長）「小林小学区における幼保小連携の取組」平成29年2月7日。